

横浜市立大学学術情報センター

貴重書 月替わり展覧会リーフレット (129)

2022年6月の作品は

「明治改正東京全図」①

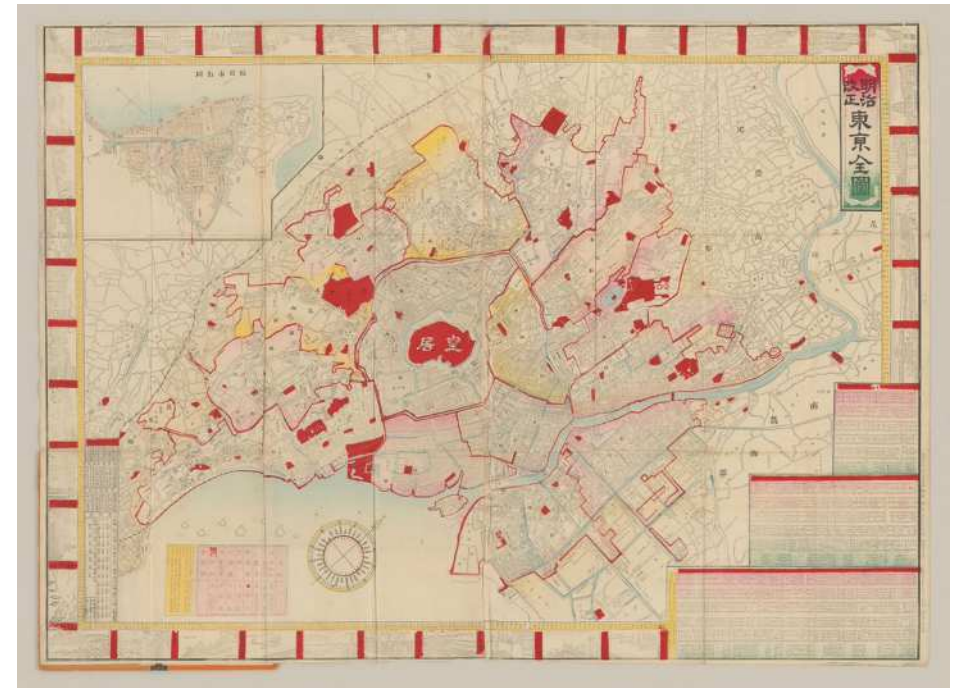
— 「明治改正東京全図」から読み取る「東京府」—

展示テーマ

～東京の街の変化～

日本の首都東京は、現在、23の特別区、26の市、5つの町、8つの村の基礎自治体からなっている都市で、日本の政治、経済、文化の中心地である。東京は、もともと江戸幕府の所在地だった「江戸」という都市で、18世紀の初めには人口が100万人を超した、世界有数の大都市だった。また、18世紀後半から19世紀初めには化政文化など江戸独自の文化が生まれ、京都・大阪を中心とした上方に代わる文化の発信地となっていた。大都市「江戸」は、慶応4年（1868年）に江戸幕府が滅亡したことによって「東京府」へと改称された。ここが「東京」という名称のスタート地点となり、西洋風の煉瓦街が生まれるなど、文明開化の中心地へと変化していった。

このように変化してきた「東京」という町。この頃の「東京府」の町の様子は、現在の「東京都」とはかなり異なるということが、当時の地図を見ることによって発見できる。「江戸」から「東京」へと変化していった明治時代、「東京」という都市はどのような姿だったのか、地図を通して確認する。



「明治改正東京全図」

(1枚)

明治時代、明治23年（1890年）

作者：不明

版元：嵯峨野彦太郎

縦 52.5cm × 横 73.7cm

この地図は、明治時代中頃に書かれた地図で、東京府内15区と6郡の詳細地図、名勝地の絵図、各区郡の村町の詳細や、横浜市街図、が記録されている。東京府内15区・6郡の戸数と人口（戸数15区21万8326戸、6郡5万5020戸、人口15区79万9990人余り、6郡26万4036人余り）、さらには東京近辺の汽車時刻表と運賃表などの細かな情報も書かれており、当時の「東京」を知るために役に立つ地図である。

展示の見どころ

地図に描かれている地域は、

麹町区



神田区



日本橋区



京橋区



芝区



麻布区



赤坂区



四ツ谷区



牛込区



小石川区



本郷区



下谷区



浅草区



本所区



深川区



以上 15 区と、荏原郡、多摩郡、南豊島郡、北豊島郡、南足立郡、南葛飾郡の

周辺 6 郡、そして左上には、小さく横浜市街図も描かれている。



この地図が描かれる少し前、明治 11 年（1878 年）に、郡区町村編制法によって「東京府」内に 15 区が置かれ、明治 22 年（1889 年）5 月 21 日には、市町村制の施行により 15 区が東京市になった。このとき周辺六郡には、町村合併によって 85 の村が成立している。地図が描かれたのが明治 23 年（1890 年）で、市町村制施行の翌年であるため、この地図は、東京市成立を機に作られた地図だと考えられる。

この、「明治改正東京全図」という地図一枚を確認するだけで、この地域の中に、現在にまで名称が生き残った地域は一つもない、ということがわかる。そして、「東京市」の姿が現在の「東京都」とは全く異なるものだったと知ることができ、興味深い。

参考文献

- ・東京都庁「東京都年表」、東京都（最終閲覧日 2020 年 8 月 13 日）
<https://www.metro.tokyo.lg.jp/tosei/tokyoto/profile/gaiyo/nenpyo.html>
- ・東京公文書館「東京の行政区画」大東京 35 区物語（最終閲覧日 2020 年 8 月 13 日）
https://www.soumu.metro.tokyo.lg.jp/01soumu/archives/0714gyosei_kukaku.htm

あとがき ～貴重資料に触れて～

手描きの古地図を初めて拝見し、地図自体の色使いや表現、その他記載された情報に工夫が凝らされていることを知ることができました。「明治改正東京全図」が描かれた時期のように情報収集の手段が限られていた時代には、今よりも更に出版物に対する価値が高かったのではないかと思います。だからこそこの地図一枚にたくさんの情報が記載されたのではないのでしょうか。一つ一つの情報を精査することがとても面白い地図でした。

※コレクションの閲覧は、作品保護のため、
展示品を除き申請が必要です。また、利用は
学術研究目的に限らせていただきます。

令和 4 年 6 月 1 日発行
令和 2 年度 日本文化論 A 受講生 編集
236-0027 横浜市金沢区瀬戸 22-2
横浜市立大学 学術情報センター